

曼荼羅



中心に 1061 体 全部で 1461 体

全部で 410 体

西 不動明王の左側 金剛界曼荼羅 ご本尊に向かって 胎蔵界曼荼羅 不動明王の右側 東
松尾榮仏画制作室

平成 10 年（1998 年）絹の生地に 6~7 回のアイ染めをして純金で描画している-作者によると 300 年は持つとのこと
松尾 榮と二代目 松尾 隆 康父子で大本山成田山新勝寺の大本堂「平成大曼荼羅」制作
平成十年(1998)・第 41 世聖仁僧正発願（長野県）平福寺 松尾 栄画伯作
一枚の絹地に画かれた金泥の曼荼羅としては、まれに見る大きさと言われます。



金剛界曼荼羅

胎蔵界曼荼羅

西 本堂左側 ご本尊に向かって 本堂右側 東

通常密教寺院では、東側に「胎蔵界曼荼羅」、西側に「金剛界曼荼羅」を掛けている。
仏教（特に密教）において聖域、仏の悟りの境地、世界観などを表わしたものとされています。
仏像、シンボル、文字、神々などを用いて視覚的・象徴的に表したもの。
成田山新勝寺の大本堂及び平和の大塔は南向きに建立されているので、理論道理に飾られている。

曼 陀 羅

曼荼羅(まんだら)とは

曼荼羅とはサンスクリット語からきており、凝縮したもの、本質を備えたもの、完全にまとまったものなどの意味があります。

そこから転じてできたのが仏さまや神さまが一定の法則をもってあつまった曼荼羅です。

仏さまの悟りの境地を表わしています。 ????? 曼荼羅まだまだわからない?????

曼陀羅とは

マンダラはサンスクリット語で「円」とか「丸いもの」「全体」「集合」を意味します。

曼陀羅という漢字はこれに当てはめた当て字です。

その多彩色の宗教的絵画から、日本で「まだら模様」の語源になったとも言われます。

曼陀羅を見て分かるのは、基本的な円と四角が中心となっていて、それが重積した求心的配列をとっていることです。

「平和の大塔入り口の説明文」

曼荼羅にもさまざまな種類がありますが、よく代表的なものとしてあげられるのが

「金剛界曼荼羅」と「胎蔵(界)曼荼羅」です。

この二つは対になっていて合わせて**両界曼荼羅**、または**両部曼荼羅**と呼ばれています。

また密教の根本経典に基づいて作られており、二つとも**大日如来を中心に一定の法則**をもって多くの尊像が配置されています。

【菩薩・明王・天部・七福神・羅漢】

密教の世界観を表わしたものといわれています。

曼荼羅の飾り方は、理論的には東向き、西向きにすべきものなのですが、全てのご本堂の

向きが南向きに建てられているわけではないので、(成田山は全て南向きに建立されています)

実際にはご本尊に向かって**左側に金剛界曼荼羅を、右側に胎蔵界曼荼羅を飾ります。**

チベットの砂曼荼羅

マンダラのマンダは「本質、中心、精髓」、ラは「所有という」意味。

極彩色の砂で描かれる砂曼荼羅は仏が住む宇宙。中心に仏の宮殿があり、繊細で美しい曼荼羅を一目見るだけで悪行を清め、世界の浄化を促すと言われている。

平和の大塔一階にはダライラマより寄進された砂曼荼羅がある。

チベット密教では、瞑想を行いながら砂曼荼羅を描くという修行が存在する。土の上に金属の漏斗を使用して着色した石英の粉を少しずつ撒き、曼荼羅を描く。完成した曼荼羅は一定の手順に従って壊し(破壇)、使用した砂を川に流す。作成から川に流すこと迄が修行とされている。

完成すると**法要**の後、**破壇式**を行います。(砂曼荼羅を壊す儀式を破壇式と言います)

数人の僧侶が数日間から数週間かけて製作した砂曼荼羅を法要の後、直ぐに破壇するのはもったいないような気がしますね。



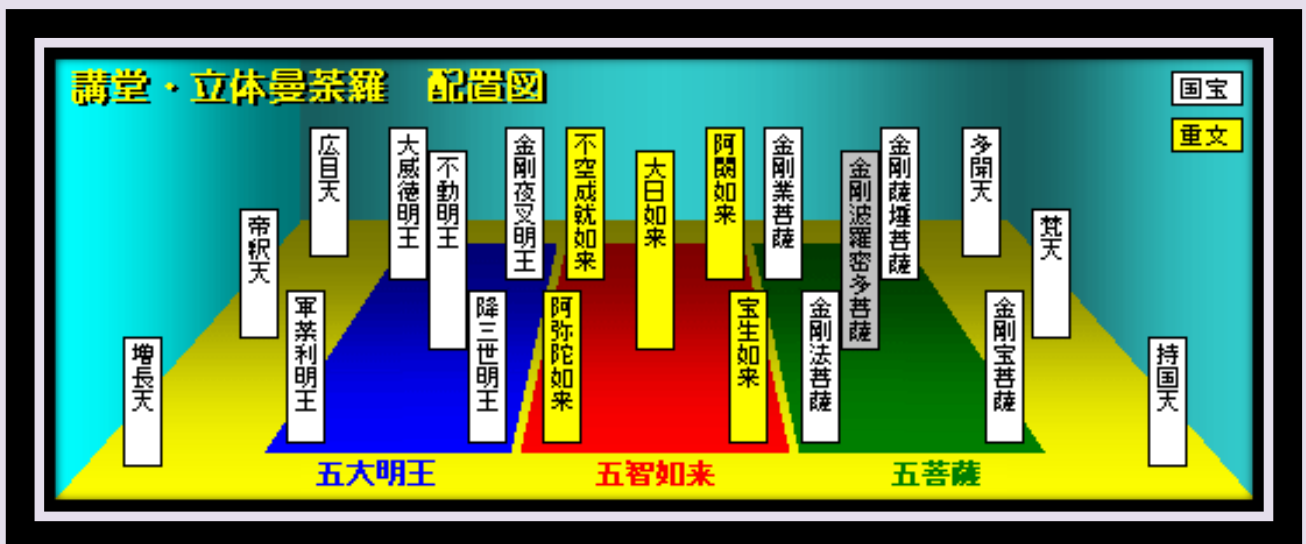
東寺講堂の立体曼陀羅

東寺の講堂には通常は絵画として表現される「曼荼羅」を、「立体表現」した世界が広がっている。空海（弘法大師）の指導のもと、二十一体の仏像を配置。

その内訳は、五仏（五智如来）と五菩薩・五大明王・四天王に帝釈天と梵天を加えたものです。空海没後4年を経た承和六年（839）6月15日に完成、開眼されました。



曼荼羅配置図



立体曼陀羅二十一体の内十五体は国宝で、火災や地震などにより消失した、中央の五智如来及び、菩薩の中心である金剛波羅蜜多菩薩の計六体は再造されたもので、重要文化財である。